

2023 年度 長岡大学シラバス

授業科目名 科目コード	ゼミナールⅢ (Seminar Ⅲ) 263045-14-000					担当教員	牧野 智一 (マキノ トモカズ)		
科目区分	ゼミナール科目	必修・ 選択区分	必修	単位数	2	配当年次	3年次	開講期	通年
科目特性	知識定着・確認型 AL/協同学修型 AL								

① 授業のねらい・概要
<p>牧野ゼミナールⅢでは、財政のテキストの輪読を通し、国あるいは地方の財政と私たちの暮らしの関わりについて学習します。財政について経済学的なアプローチにより考えることで、普段あまり意識はしないが私たちと深いかかわりを持っている税金や行政サービスなどの重要性や問題点に関心を持ち、私たちの暮らしと政府あるいは地方自治体との関係を考察します。</p> <p>また、ゼミコンパやゼミ旅行など様々なイベントを学生諸君に企画してもらい、ゼミ生同士が大学を卒業した後もお互いに支え合えるような生涯の友人関係を構築できることを目指します。</p>
② ディプロマ・ポリシーとの関連
<p>地域社会に貢献する姿勢/職業人として通用する能力/専門的知識・技能を活用する能力/コミュニケーション能力/情報収集・分析力を養う。</p>
③ 授業の進め方・指示事項
<p>ゼミ生による発表形式で授業を行う。各ゼミ生は割り当てられた教科書の担当箇所の内容をパワーポイントにより報告資料を作成し、授業ではプレゼンテーションを行う。事前準備を怠ると、授業の進行に支障をきたし、他のゼミ生に迷惑をかけることをしっかりと認識し、責任感を持って授業に臨むこと。</p>
④ 関連科目・履修しておくべき科目
<p>「マクロ経済学」「ミクロ経済学」「財政学」の知識を有すること。</p>
⑤ テキスト (教科書)
<p>『図説日本の財政 (令和4年度版)』 財経詳報社</p>
⑥ 参考図書・指定図書
<p>竹内信仁編 (2013) 『スタンダードミクロ経済学』 中央経済社 竹内信仁編 (2013) 『スタンダードマクロ経済学』 中央経済社 竹内信仁編著 (2007) 『スタンダード財政学 第2版』 中央経済社</p>
⑦ 評価Aに対応する具体的な学習到達目標の目安
<p>(i) プレゼンテーション用ソフトによる報告用の資料を作成することができ、他者に伝わりやすい工夫等がある程度できる。</p> <p>(ii) 報告用の資料を使用したプレゼンテーションができ、他者に内容を適切に伝えることができる。</p>

- (iii) 財政に関する基本的な知識をテキストの内容の範囲で他者に適切に説明でき、テキストの範囲を超えた内容もある程度説明できる。
- (iv) 日本の財政の現状について、教員の支援を受けることなく、経済学の理論や様々な要因と関連付けてある程度考察できる。

⑧ ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	S	A	B	C	D
	到達目標を越えたレベルを達成している	到達目標を達成している	到達目標達成にはやや努力を要する	到達目標達成には努力を要する	到達目標達成には相当の努力を要する
(i) 報告資料の作成	プレゼンテーション用ソフトによる報告用の資料を作成することができ、他者に伝わりやすい工夫等が適切にできる。	プレゼンテーション用ソフトによる報告用の資料を作成することができ、他者に伝わりやすい工夫等がある程度できる。	プレゼンテーション用ソフトによる報告用の資料を作成することができ、他者に伝わりやすい工夫等が一部できる。	プレゼンテーション用ソフトによる報告用の資料を作成することができるが、他者に伝わりやすい工夫等ができない。	プレゼンテーション用ソフトによる報告用の資料を作成できない。
(ii) プレゼンテーションの実施		報告用の資料を使用したプレゼンテーションができ、他者に内容を適切に伝えることができる。	報告用の資料を使用したプレゼンテーションができ、他者に内容をある程度伝えることができる。	報告用の資料を使用したプレゼンテーションができるが、他者に内容をほとんど伝えることができない。	報告用の資料を使用したプレゼンテーションができない。
(iii) 財政に関する基本的な知識	財政に関する基本的な知識をテキストの内容の範囲だけでなく、テキストの範囲も超えた内容も他者に適切に説明できる。	財政に関する基本的な知識をテキストの内容の範囲で他者に適切に説明でき、テキストの範囲を超えた内容もある程度説明できる。	財政に関する基本的な知識をテキストの内容の範囲で他者に適切に説明できる。	財政に関する基本的な知識をテキストの内容の範囲で他者にある程度説明できる。	財政に関する基本的な知識を他者にほとんど説明できない。
(iv) 日本の財政の現状の考察	日本の財政の現状について、教員の支援を受けることなく、経済学の理論や様々な要因と関連付けて適切に考察できる。	日本の財政の現状について、教員の支援を受けることなく、経済学の理論や様々な要因と関連付けてある程度考察できる。	日本の財政の現状について、教員の支援を受けることで経済学の理論や様々な要因と関連付けてある程度考察できる。	日本の財政の現状について、教員の支援を受けることで経済学の理論や様々な要因と関連付けることはできないが、ある程度考察ができる。	日本の財政の現状について、教員の支援を受けてもほとんど考察ができない。

⑨ 学習の到達目標（評価項目）とその評価の方法、フィードバックの方法								
学習到達目標（評価項目）	試験	小テスト	課題	レポート	発表・実技	授業への参加・意欲	その他	合計
総合評価割合					50%	30%	20%	100%
(i) 報告資料の作成					10%	6%	5%	21%
(ii) プレゼンテーションの実施					10%	6%	5%	21%
(iii) 財政に関する基本的な知識					15%	9%	5%	29%
(iv) 日本の財政の現状の考察					15%	9%	5%	29%
フィードバックの方法	プレゼンテーションや資料作成に対し、適宜アドバイスを行う。							

⑩ 担当教員からのメッセージ（昨年度授業アンケートを踏まえての気づき等）
知識定着・確認型 AL/協同学修型 AL を採用し、学生諸君が主体的に学修することを意識した授業を目指して行く。

⑪ 授業計画と学習課題			
回数	授業の内容	授業外の学習課題と時間（分） （※特別な持参物）	
1	オリエンテーション	担当箇所の内容理解と報告準備	60分
2	日本の財政の概況	日本の財政の概況についての理解	180分
3	財政状況の国際比較	他国と比較した日本の財政の状況の理解	180分
4	これまでの財政状況	これまでの財政状況の推移の理解	180分
5	財政の課題	日本の財政の課題についての考察	180分
6	財政健全化に向けた努力	財政健全化に向けた動きの理解	180分
7	財政とはなにか	財政の役割についての理解	180分
8	財政の3機能	財政の3機能についての理解	180分

9	財政学の歴史	財政学の歴史の歴史についての理解	180 分
10	財政赤字に関する議論	財政赤字に関する議論の理解	180 分
11	課税をめぐる議論	課税をめぐる議論の理解	180 分
12	予算制度	予算制度についての理解	180 分
13	国の収入の概要	国の収入の概要についての理解	180 分
14	平成 30 年度予算編成の背景と概要	平成 30 年度予算編成の背景と概要の理解	180 分
15	平成 30 年度復興特別会計予算	平成 30 年度復興特別会計予算の理解	180 分
16	社会保障	社会保障制度に関する理解と考察	180 分
17	文教及び科学技術の振興	文教及び科学技術の振興に関する理解と考察	180 分
18	社会資本の整備	社会資本の整備に関する理解と考察	180 分
19	経済協力	経済協力に関する理解と考察	180 分
20	防衛力の整備	防衛力の整備に関する理解と考察	180 分
21	中所得企業施策の推進	中所得企業施策の推進に関する理解と考察	180 分
22	農林水産業の振興	農林水産業の振興に関する理解と考察	180 分
23	エネルギー・地球温暖化対策の推進	エネルギー・地球温暖化対策の推進に関する理解と考察	180 分
24	国債費及び国債管理政策	国債費及び国債管理政策に関する理解と考察	180 分
25	地方財政	地方財政と国の財政の関係の理解と考察	180 分
26	予算制度改革	予算制度改革に関する理解と考察	180 分
27	財政投融资	財政投融资に関する理解	180 分

28	国庫金制度	国庫金制度に関する理解	180 分
29	税制	税制に関する理解	180 分
30	まとめ	各回の講義内容の整理と理解	240 分

⑫ アクティブラーニングについて

知識定着・確認型 AL/協同学修型 AL を採用する。ゼミ生によるテキストの内容報告やディスカッションを行い、学修効果の向上に活用する。

※以下は該当者のみ記載する。

⑬ 実務経験のある教員による授業科目

実務経験の概要

実務経験と授業科目との関連性